

全校集会 校長講話（4月13日）

テーマ：「言葉」の力

おはようございます。

入学式、そして始業式から数日経ちました。

新しいクラスには慣れましたか？新しい教科書は開いてみましたか？

「いよいよ始まったな」というワクワク感と、少しの緊張感が入り混じった、新学期独特のいい空気が学校中に流れています。

さて、突然ですが、皆さんは、テレビやネットのCMで学校の階段の上にいる一匹の猫が一人の男子高校生をじっと見つめて、こう呟くのを見たことがありますか？ 「言葉、ちゃんと使えよ。人間だろ。」

ドキッとした人もいないのでしょうか。先生はこの言葉を聞いたとき、思わず自分の胸に手を当ててしまいました。猫に諭されてしまったという恥ずかしさと、その言葉の鋭さに驚いたからです。

なぜ、猫は私たちに「人間だろ」と言ったのでしょうか。

実はこの言葉は、前の一万円札の顔、福沢諭吉の教えを元にしていないかと言われています。

福沢諭吉は今から150年ほど前、新しい日本を作ろうと奮闘した教育者です。実は皆さんが今、当たり前に使っている言葉の多くは、彼が作った、あるいは日本に広めたものだと言われています。

例えば、「自由」「家庭」「権利」「演説」。

これらは彼が、海外の考え方を日本人が理解できるようにと、一生懸命に考えて生み出した言葉です。

このような言葉がなかった時代に、彼は言葉を作ることで、日本人の新しい生き方や世界を切り拓きました。そんな「言葉の生みの親」とも言える福沢諭吉が、現代のCMの中で、猫の姿を借りて私たちにこう語りかけています。「言葉、ちゃんと使えよ。人間だろ」

皆さんは、この言葉をどう受け止めますか？

言葉は、料理で使う「包丁」に似ています。

おいしいものを作って人を笑顔にする道具ですが、使い方を間違えて振り回せば、相手を深く傷つける「刃物」になってしまいます。

これから始まる新しい1年。教室で、部活動で、あるいはSNSで。

言葉を発する前のほんの一瞬、「今の言葉は、誰かを笑顔にする魔法かな？ それとも傷つける刃物かな？」と自分に問いかけてみてください。

言葉を、ほんの少しだけ丁寧に選んでみてください。

「ありがとう」「助かるよ」「頑張ろう」

皆さんが「ちゃんとした言葉」を選ぶことで、この学校はもっと楽しく、もっと自由な場所が変わっていきます。皆さんの言葉が、この学校を温かい笑顔でいっぱいにしてくれることを期待しています。

以上で校長先生の話が終わります。